

公開講演会

講師

にしむら
西村ユミ

東京都立大学教授

「ケア」を哲学する

— 患者への直接ケアから地域包括ケアまで —

2025.6.10 | 火 |

14:55~16:25 ※開場14:15

東京女子大学講堂 (東京都杉並区善福寺2-6-1)

【アクセス】JR 西荻窪駅または吉祥寺駅から関東バスで「東京女子大前」下車

【案内】東京女子大学比較文化研究所

◎03-5382-6506(行事案内テープ) ◎<https://www.lab.twcu.ac.jp/~icsc/event/>

東京女子大学比較文化研究所 | 申込不要・聴講無料・定員 500 名



「ケア」を哲学する

患者への直接ケアから地域包括ケアまで

● 講演梗概

看護という実践と人文学の哲学とは、いっけん距離があると思われるかもしれません。しかし、米国では1960年代に、看護理論に哲学が取り入れられ、日本でも1960年代から、哲学の中の一潮流である現象学を手がかりとした議論がさかんに行われています。本講演では、なぜ看護やケアを吟味するのに哲学が求められるのかを、国内外の議論を紹介しながら解説します。また、哲学を手がかりにして捉えなおした看護ケアのあり方を紹介します。例えば、患者への直接ケアは、はっきり自覚していない身体の応答を土台にして成り立っています。さらにそのケアは、他の多くの看護師たちの代表として実現しており、看護師たちの協働の広がりや、地域で健康問題を持った多くの人々を病院で受入れることを可能にし、これなくして直接ケアは実現しないといえます。本講演では、歴史を振り返りつつ、哲学で見えるようになった看護ケアのあり方を、一緒に考えたいと思います。

● 講師紹介

西村 ユミ

Yumi NISHIMURA

東京都立大学教授

東京都立大学健康福祉学部、人間健康科学研究科教授。2025年4月より副学長。2000年日本赤十字看護大学大学院博士後期課程修了、博士（看護学）。日本赤十字看護大学講師、静岡県立大学看護学部助教授、大阪大学CSCD准教授を経て現職。2015年臨床実践の現象学会設立、主宰。2020年より日本学術会議第二部会員。日本看護系学会協議会理事、日本看護科学学会副理事長など。著書に、『語りかける身体』（ゆみ出版、2001；講談社、2018）、『交流する身体』（NHK BOOKS、2007）、『看護実践の語り』（新曜社、2016、日本医学哲学・倫理学会賞）、『急性期病院のエスノグラフィー』（新曜社、2020）、『医療とケアの現象学』（ナカニシヤ出版、2023）ほか。



アクセス

■JR西荻窪駅北口より徒歩12分

■バス利用の場合

- ◎西荻窪駅北口（1番のりば）から吉祥寺駅行、「東京女子大前」下車
- ◎吉祥寺駅北口（3番のりば）から西荻窪駅行、「東京女子大前」下車
- ◎上石神井駅南口から西荻窪駅行、「地蔵坂上」下車徒歩5分

【所在地】〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

※車でのご来場はご遠慮ください。

